市政に対する 一般質問

9月定例会の一般質問は9月3日・4日・5日の3日間行われ、12人の議員が市政全般に対する諸問題について質問をしました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。

なお、詳細については11月下旬発行予定の会議録（市役所市政情報コーナー、図書館及び地域公民館、市議会ホームページなどで閲覧可能）をご覧ください。

政治姿勢

市長の政治姿勢

高橋 弘行（しんりょく会）

●デマンド交通

問 高齢者、交通弱者の利便性のため、昨年度行った実証実験の効果とその見解及び今後における運行計画は。

答 高齢者の医療機関への利用が最も多かった一方、休止した循環バス利用者から、運行継続の意見もあった。

市内公共交通のあり方について、導入するか否かを含め、今年度を目安に方向性を見出していきたい。

●忍中学校の校庭の雨水対策

問 現状把握と改良計画は。

答 昨年の忍地区市政懇談会で、現状は把握しているが、昨年の修繕で排水状況が改善したため、現在、校庭改良を行う必要はないと考える。

●財団法人行田市中小企業退職金共済会補助金

問 加盟人数834人、加盟企業105社に、年2100万円補助金を支出する市長の見解と、補助金中止の選択は。

答 市内中小企業の従業員の福祉の増進と雇用の安定を図ることを目的とし、支援を行っているが、今後は、補助金の減額も視野に入れ、総合的に協議していきたい。

●観光行政

問 3年間で観光費4億1千万円投入した観光事業の評価見解及び今後の重点事業は。

答 観光客の数も飛躍的に増え、大きな成果を上げている。

今後も、観光施策を力強く推し進め、さらなるにぎわいを創出していきたい。

●成年後見制度

問 認知症、知的障害者、精神障害者の権利を法律的に支援する制度の認識、見解及び成年後見センター等の行政主導での取り組みは。

答 高齢化や核家族化の進展により、必要性は認識している。また、社会福祉協議会が法人後見事業を立ち上げ、家庭裁判所から後見人を受任できる体制づくりを進めている。

政治姿勢

今後の市政発展のための意気込み

吉田 幸一（新政策研究会）

問 工藤市政がスタートし、早7年半という歳月が経過したが、市長は、就任当初から、財政の健全化を最優先課題として掲げ、子どもにツケを回さないスローガンのもと、また、市長自身のマニフェストでは、安心・安全なまちづくりを重点戦略として掲げ、ぬくもり、うるおい、にぎわいを合い言葉に、各種政策を打ち出すなど、その卓越した手腕には目を見張るものがある。

現在、地方自治体は、生き残りをかけて独自性を発揮しながら真摯に取り組むときであり、強力なリーダーシップにより市政を牽引していかなければならない。

そこで、市長の長年培われた知識と経験、そして卓越した政治手腕を存分に発揮し、これからも行田市の限りない発展に尽力するよう期待するものであり、さらなる市政発展のための意気込みについて決意を伺いたい。

答 平成19年5月に市長に就任して以来、「元気な行田」を実現するという、市民の皆様との約束を忘れることなく、市民の皆様の目線及び声を活動の原点に置き、徹底した情報公開と聖域なき改革を力強く推し進め、市民生活の向上と行田市のさらなる発展のため、日々全力で市政の運営に邁進してきた。

今後も、明確なビジョンを持ち、将来を見据えながらしっかりとした道筋をつけ、身命を賭して市民の皆様の負託に真正面から応えていくことが、私に課せられた使命と考え、全力を尽くす決意である。

これまでの経験と実績を礎に、確固たる決意と情熱を持って、市民の皆様一人一人が豊かな暮らしを実感できる幸せ、活力みなぎる元気な行田の実現を目指し、引き続き市政のかじ取りを担わせていただきたい。

防災・減災

女性の防災リーダー育成について

二本柳妃佐子（公明党）

問 本市の地域防災計画も見直しが行われているが、いざという時に女性の視点に立った地域防災計画になるためにも、女性のための防災研修を開催し、地域の女性を防災リーダーとして育成することで、きめ細やかな気遣いができ、防災・減災の向上力になると思うがどうか。

答 地域防災力を向上する上